



校長室だより

校長 山崎 聡子

自己決定の大切さ

1年生一人一人の思いが描かれた凧が空高く上がっていたので、校庭に様子を見に行きました。多くの子供たちは、思いきり走り、嬉しそうに凧上げをしていたのですが、絡まった凧糸を一生懸命ほどこうとしている子供の姿が目に入りました。手助けしようかと声をかけると、「大丈夫、自分でできる」という返事があったので、様子を見守ることにしました。しばらくして、「できた」と目を輝かせて話しかけてきました。他の子供たちの動きに少し遅れをとりましたが、嬉しそうに凧上げをする姿を見て、自分の力で絡んだ凧糸をほどいた喜びが、凧上げすることの楽しさに加わってより活動を楽しむことにつながったのではないかと感じました。

「落とし物がありました」とよく声をかけられることがあります。落とし物にもよりますが、「どうしたらいいと思う？」と問い返すと「渡しに行きます」とか「落とし物の所に置いてきます」とか、子供なりに考えて行動をおこそうとする姿があります。大人が答えを言うのは簡単なことなのですが、子供たちの考えを聴くこと、子供に選択させていくこと、子供を主語にして関わっていくことが大切なことだと考えます。なぜなら、日常の中にある何気ない出来事の中で、自分の行動を自分で決定していくことで得られる達成感、充実感は大きなものであることが子供の様子から伝わってくるからです。自分で決めて行動している時の子供の表情は、きりっとし

たいい表情になっていきます。そんな瞬間をたくさん作っていきたいと思います。自分で考えて、判断し、決定していくことを繰り返し積み上げていくことで、自信をもって行動できる力につなげていきたいと思います。

自己決定の大切さを表した、ロバと親子の話があります。紹介します。

年をとった父親がロバに男の子を乗せて歩いていると、「年老いた親に歩かせて親不孝者だ」と悪口を言われました。そこで恥ずかしくなった息子は、ロバから下りて父親を乗せます。すると、「なんてひどい父親だ。自分がロバに乗って、あんなに小さな子供を歩かせるなんて」と悪口を言われます。皆が言うことももっともだということで、次に、二人でロバに乗ります。すると、「あんなに小さなロバに二人で乗るなんて、ざんこくだ」と言われます。最後には、ロバの足を縄で縛り、丸太棒を通し二人でかつぎあげ、こっけいな姿で町を歩いて行ったのでした。

いたずらに他人の言葉に左右されてはいけません。正しい道であるなら、人が何と云っても確信をもって元気よく前進すべきです。

「朝の心」川部 金四郎 著:ドン・ボスコ社

「大事なことは、他人の評価もさることながら、自分で自分を評価すること」という松下幸之助の言葉もあります。（「もっと大切なこと」:PHP）。自己決定して行動していくことは大人の私たちにも必要なことであるかと思っています。自問自答し、最善を尽くしながら進んでいきたいと思います。